【原著】 大学入試研究ジャーナル第 35 号, 55-62, 2025

「３要素・３観点」と大学入学者選抜 AP との関連に係る一考察

永野拓矢，寺嶌裕登，橘　春菜，石井秀宗（名古屋大学）

2017 年 4 月の学校教育法施行規則改正により，「三つのポリシー」の策定・公開が義務づけられ，現在は全大学の選抜要項等に記載されている。このうち，アドミッション・ポリシーには「学力の 3 要素」が含まれるが，さらに 2022 年度学習指導要領改訂により同要素に沿った「観点別学習状況の評価」が加わった。本稿では高大接続期に係る「学力の 3 要素・観点別学習状況の評価（3 観点）」と国立大学が示すアドミッション・ポリシーの記載内容に注目し，各入学者選抜の関連について分析した。その結果より，入試種別や大学の類型による「求める人物像」の差異や傾向について明らかにした。

キーワード：学力の 3 要素，観点別学習状況の評価，アドミッション・ポリシー

1 はじめに

1.1 高大接続改革に伴う「3 要素と 3 ポリシー」

今般の日本における教育改革を方向づけている学力観は，「学力の 3 要素（知識・技能，思考力・判断力・表現力，主体性を持って多様な人々と協働する態度）」と称される。各要素の表現に若干の異同があるものの，同 3 要素は，幼児教育から大学教育のすべてにわたって育成することが重視されている。大学入学者選抜においても，それらの適切な評価が求められている。

2017 年 7 月 13 日に文部科学省より「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告について」が発出された。中央教育審議会答申（2014）や「高大接続システム改革会議」最終報告（2016）等を踏まえたこの予告には，各大学の入学者選抜において「学力の 3 要素」を多面的・総合的に評価するものへ改善することなど，高大接続改革の着実な実現に向けた内容が記載されている。加えて，同年 4 月 1 日に施行された学校教育法施行規則（第 165 条 2，第 172 条 2 の改正）では，ディプロマ・ポリシー（以下，DP），カリキュラムポリシー（以下，CP），アドミッション・ポリシー（以下，AP）といった「三つのポリシー」の策定・公開が義務づけられた。施行以降，多くの大学にてホームページや入学者選抜の募集要項の巻頭部等に順次それらが掲載されている。さらに AP は，各学部学科等および選抜区分ごとに具体的に記載されるようになった[1)]。

なお，AP については，中央教育審議会大学分科会大学教育部会（2016）が示したガイドラインにおいて，各大学，学部・学科等の教育理念，DP，CP に基づく教育内容等を踏まえ，どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり，受け入れる学生に求める学習成果（「学力の 3 要素」についてどのような成果を求めるかを示すもの）とされた。

1.2 「3 要素と 3 観点」

続いて，「観点別学習状況の評価（以下，観点別評価）」である。2018 年度より，高等学校・中等教育学校後期課程（以下，高校等）における学習指導要領の改訂にて「学力の 3 要素」の概念を拡張させた「資質・能力の三つの柱」の育成が掲げられ，それに伴い，観点別評価の各観点が，これまでの 4 観点から「知識・技能」,「思考・判断・表現」,「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点に変更された。加えて， 2022 年度の高校等入学者より，調査書の原簿となる生徒指導要録（以下，指導要録）に各教科・科目等の観点別評価の欄が新設された。これまでは，4 観点による評価を踏まえて評定のみが記入されてきたが，3 観点の評価結果と，それらを総括的とした学習成績概評を記入することが義務づけられた。

1.3 問題の所在

本稿では，こうした高大接続改革期において「3 つのポリシー」の策定・公開の義務化に伴う，学生募集要項やホームページに記載された AP に「学力の 3 要素」がどのように記載され，何を求めているのか（期待されているのか）について，2024 年度の同要項等に記載されたテキストより特徴や傾向を分析し考察した。なお，観点別評価は現在（2024 年度）のところ調査書に反映されていないが，調査書の基になる指導要録には 2022 年度入学生から記載されている。したがって現状は調査書への記載待ちの段階であるが[2)]，

「学力の 3 要素」の各項目との親和性が高いことから（表 1），今後の展開で AP に観点別評価が追加される可能性も含まれると考え，「3 要素・3 観点」と大学入学者選抜の関連性と題した。

表 1 「3 要素・3 つの柱・3 観点」の目標と評価

	各教科における評価の基本構造		
観点別学習状況の評価（3 観点）（2018 学習指導要領改訂、2022 生徒指導要録改善）	**知識・技能**	**思考・判断・表現**	**主体的**に学習に取り組む態度（※「感性、思いやりなど」は個人内評価）
資質・能力の3つの柱（2018 学習指導要領改訂）	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
学力の3要素（2007 学校教育法第30条第2項、2016 高大接続システム改革会議「最終報告」）	**知識・技能**	**思考力・判断力・表現力等**	**主体性**を持って，多様な人々と協働する態度

1.4 先行研究と研究目的

AP および「学力の 3 要素」のとりわけ主体性等に係る先行研究は，調査対象によってネガティブやポジティブな評価に分かれることが特徴といえる。大久保（2008）は，大学 AP と調査書「指導上参考となる諸事項」の記載を比較し，記載率が高い文言と，大学の AP が示す（期待する）内容は乖離していることを示すなど，ネガティブな一面を指摘した。一方で，宮本（2019）は東北大学の総合型選抜で入学した学生は，一般選抜で入学した学生と比較して「主体性」がよりきめ細かく評価されており，「第 1 志望」と相まって，入学後の学びにおける「主体性」も高くなることが十分予想されるとポジティブに評価している。倉元（2015）は，主体性等の評価として位置付けられる高校等の調査書「指導上参考となる諸事項」について，「『指導上参考となる諸事項』等といった学力以外の要素を顕す項目が，実際問題として何を評価する指標になっているのか，また，どの程度，信頼に足るものなのか，といった測定の妥当性・信頼性という側面からの構造的な問題点に対する疑念も払拭しがたい」と述べており，同書改訂 [3] において本項目から主体性を引き出すには，原簿となる指導要録も含めた全般的な改善の必要性がうかがえた。このほか，西郡（2019）は主体的に取り組む態度や姿勢に一定の評価を示しつつも，主体的な状況は様々な場面があることで，「主体的とは何を以って判断するのかは一様ではない」として，受験者に対して多くの材料をもとに時間をかけて丁寧に判定することが必要と指摘する。しかし，短期間で多くの受験者の評価を要する一般選抜での多面的・総合的評価面においては主体性等評価の位置づけが課題になると考えられる。

以上のように，AP や主体性等に関する整合性や実効性については様々な評価や指摘が散見される。さらに近年の調査では，賈（2023）が各大学の募集要項等を用いて一般選抜における「主体性等の評価」に関する分析を行い，日程や方式毎の主体性評価の相違点を明らかにした。そこでは，主体性等の評価が十分に実施されていないと論じ,その背景には「評価の実施可能性の低さ」「費用対効果への懸念」「志願者の確保」があると指摘している。これは，大学側が入試における主体性等を評価するにあたって，正しく評価するための措置の拡充が必要であることを示唆しているといえる。

以上から，調査書研究を含む「学力の 3 要素」に係る主体性等の評価と大学入学者選抜等との関連についての先行研究は比較的充実しているが，いずれも「主体性等」や「一般選抜」が中心であり，学校推薦型選抜や総合型選抜等，入試種別ごとの調査・分析や「学力の 3 要素」全体に着目する形での考察は不足している状態であると考えられる。そこで本稿では，「学力の 3 要素」と大学入学者選抜（入試種別ごと）について，各国立大学が発表した AP のテキストを分析し特徴と傾向について考察した。

2 調査の対象と方法

2.1 調査の対象

AP の策定・公開が義務化された 2017 年度以降，各大学の入学者選抜要項や学生募集要項にその旨が順次記載されるようになった。本調査では，AP の記載内容の全体的傾向と「学力の 3 要素」との関連をとらえるため，学士課程募集を行う国立大学 82 校を対象に，2024 年度入学者選抜の入試要項（一般選抜募集や各選抜の学生募集要項），および各大学のホームページの当該箇所について，入試種別ごとに（一般選抜，学校推薦型選抜，総合型選抜），本文に書かれた各単語の共起ネットワーク図を作成し，分析および考察を行った。集計に当たっては大学ごとに AP の表現方法が異なることで偏りが生じたため（例：A 大学ではある学部では学科・コース単位でそれぞれ AP が掲載される一方で，B 大学は学部一括りで 1 つにまとめられる等），ほぼ同じ内容については 1 学科を代表としてまとめている。また，教科（数学，理科）や実技科目（スポーツ，音楽等）等，具体的な名称は削除した。さらに地域枠や専門学科枠など，出願者が限定される AP も削除し，誰もが出願できる選抜の AP のみを対象とした。

なお，前述の通り観点別評価は現状では指導要録までにとどまり調査書への記載は見送られているが，2022 年度の学習指導要領改訂以後の高校等入学者より，同評価を踏まえた成績評価が行われている。また，表 1 の通り各教科の同評価は「学力の 3 要素」および「資質・能力の三つの柱」を踏まえた 3 つの観点評価に至った経緯から，「3 要素」の各項目は「3 観点」と同等に捉えられるものと判断し考察に加えた。

2.2 調査の方法

表 2 の通り，学士課程の入学者選抜を行う全国の国立大学を対象に，入試要項等および各大学のホームページより，入試種別毎に（一般選抜「前期・後期」，学校推薦型選抜「大学入学共通テスト（以下，共通テスト）を課す・課さない」，総合型選抜「共通テストを課す・課さない」の 6 パターン），「求める人物」についての記載内容（単語）について，本文に書かれた単語の共起ネットワーク図を作成し考察した。

さらに，82 の国立大学を第 3 期中期計画期に行われた 3 つの類型（「地域活性化の中核的拠点（地域）」「特定分野で世界的な教育研究の拠点（強み・特色）」「世界最高水準の教育研究の拠点（卓越）」）に分類し（表 3），各群の特徴や傾向についての分析・考察も試みた。なお，単語を抽出する際には，名詞，形容詞，動詞に限定している。また，非自立語と非自立語の組み合わせ，自立語に非自立語が続く組み合わせに関しては，内容上意味のあるものが比較的少数であったことから，図の煩雑さを避けるため除外した。

以上から記載が不明瞭で分類が困難な一部大学を除き，75 の国立大学による選抜ごと（入試種別），および類型ごとに AP 分析を行った。なお，共起ネットワーク図の作成・分析にあたっては，データの分析に日本語形態素解析器 ChaSen ，およびテキストマイニングとして KH Coder を使用した。

表２　国立大学　2024 年度大学入学者選抜「大学別・入試種別・類型別」AP の集計

選抜方式①	選抜方式②	「３つの類型化」による分類			計
		地域 (55校)	強み・特色 (11校)	卓越 (16校)	(82校)
調査した大学(数)		48	11	16	75
一般選抜	**前期日程**	**250**	**24**	**134**	**408**
一般選抜	**後期日程**	**197**	**16**	**56**	**269**
学校推薦型選抜	**共通テストあり**	**120**	**10**	**44**	**174**
学校推薦型選抜	**共通テストなし**	**115**	**14**	**15**	**144**
総合型選抜	**共通テストあり**	**64**	**2**	**81**	**147**
総合型選抜	**共通テストなし**	**75**	**13**	**27**	**115**

表３　国立大学「第３期中期計画　３つの類型」

類型	大学
地域	北海道教育、室蘭工業、小樽商科、帯広畜産、旭川医科、北見工業、弘前、岩手、宮城教育、秋田、山形、福島、茨城、宇都宮、群馬、埼玉、横浜国立、新潟、長岡技術科学、上越教育、富山、福井、山梨、信州、岐阜、静岡、浜松医科、愛知教育、名古屋工業、豊橋技術科学、三重、滋賀、滋賀医科、京都教育、京都工芸繊維、大阪教育、兵庫教育、奈良教育、和歌山、鳥取、島根、山口、徳島、鳴門教育、香川、愛媛、高知、福岡教育、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、琉球　（55校）
強み・特色	筑波技術、 東京医科歯科、東京外国語、東京学芸、東京芸術、東京海洋、お茶の水女子、 電気通信、 奈良女子、九州工業、鹿屋体育　（※学士課程募集の11校）
卓越	北海道、東北、筑波、千葉、東京、東京農工、東京工業、一橋、金沢、名古屋、京都、大阪、神戸、岡山、広島、九州　（16校）

3 結果と考察

図 1～6 は，各大学の選抜要項や学生募集要項，並びにホームページの該当サイトに記載された，入試種別ごとの AP のテキストデータ（単語）を，共起ネットワーク図にまとめたものである。なお「類型別」の分析については，各類型と特に共起性（関連性）の高い単語をまとめ，各単語に関して共起性を表す jaccard 係数を記載した（表 4）[4)]。

3.1 一般選抜　前期日程

図 1「一般選抜・前期日程」においては，学力を重視した一般選抜の前期日程らしく，「評価」に共起した単語は「共通テスト」「個別学力検査」といった学力に関すること，次いで「知識」「技能」「思考」「判断」「表現」といった，学力測定に関わる単語群であった。

なお，「主体性等」の評価は別グループで構成されているが，「主体性」は前述のグループに含まれる「知識」「技能」「判断」「表現」 等，学力測定に関わる単語の多くと破線で結ばれていることから「学力の 3 要素」全体で共起していることがわかる。

「類型別」では，「基礎学力」が 3 類型でそれぞれ結ばれていた。「基礎学力」とは，大学や学部で解釈が異なるが，概ね共通テストや個別学力検査など「学力全般」のことを示している 。どの類型でも学力を測ることはすなわち入学後の学修に関わることで，それを高校等で得た学力を重視していることを示したといえよう。また，「地域」と「卓越」の各単語が「強み・特色」より共起する傾向にあるが，これは各群の量的な違いが背景にあることも考えられる。

3.2 一般選抜　後期日程

図 2「一般選抜・後期日程」は，前期日程に比べ学力試験の教科・科目数が少なく，代わりに総合問題，小論文，面接などを課す傾向にあるが[5)]，「国立大学全体」においては，前期日程同様に「評価」を中心に「共通テスト」「個別学力検査」が繋る一方で，「調査書」「総合（問題）」「面接」など，前期日程とは異なる単語などが共起しており，前期とは異なる方法で評価・選抜されていた。一方で「主体性等」については，前期同様に学力系とは異なるグループを形成しているが，特徴的な点として「技能」と「主体性」が共起していたことが挙げられる。これは個別試験で実技や口頭試問など，学力以外を課す大学学部が前期日程に比べて多いことで学力検査の比重が小さいことも示唆している。

「類型別」では，すべての類型で共起したのは「能力」であった。これは「卓越，強み・特色」で共起した「解決」，「地域，強み・特色」の「学習」，さらに「卓越，地域」では「判断」「表現」などと組み合わせると，「解決能力」「学習能力」「判断能力，表現能力」など，各類型が求める能力を求めていることが示唆される。このほか，各類型単独の共起においては，「地域」は「高等学校」「基礎学力」「面接」「関心」「意欲」など，高校等の指導における教育成果を期待していること，また，「強み・特色」では「分野」「達成」「問題」など，本人の思考力や行動力を重視していること，さらに「卓越」は，「多様」「人々」「技能」「成績・成果」などから，幅広い能力に加え他者とのコミュニケーション能力を重視することが読み取れた。

3.3 学校推薦型選抜（共通テストを課す）

図 3「学校推薦型選抜・共テあり」では，一般選抜と同様に共通テストを課す選抜だが，「評価」「共通テスト」「面接」「意欲」が共起し，さらに「調査書」に繋がるなど，「学校の評価＋学力＋本人の意欲」をそれぞれ重んじた学校推薦型選抜らしい配列になっている。一方で共通テストを課すからなのか，「知識」が「思考・表現」および「判断・主体性・技能・多様・態度」など，「評価・テスト」や「主体性等」のグループとそれぞれ結びつく傾向を示した。また，「面接」と共起した「思考・表現」が「判断・技能・主体性」と別グループを構成し，それぞれ共起するといった興味深い結果もみられた。

「類型別」では，3 類型の共通単語は「評価」「意欲」「能力」であり，学校推薦型選抜らしく多くの大学が志願者の「意欲・能力」に期待している。また，「地域，強み・特色」で類型独特ゾーン（degree1）の単語が多かった。「地域」は「高等学校」「学習」「基礎学力」など，一般選抜後期日程と同様に，高校等による直接的な指導が教育効果向上につながると期待されていることがうかがえる。一方で，「強み・特色」は「探究」「課題」「関心」「小論文」など，本人の様々な「力」を重視していることが示唆された。

3.4 学校推薦型選抜（共通テストを課さない）

図 4「学校推薦型選抜・共テなし」において，同選抜は共通テストを課さぬ推薦型ということで，頻出回数が最多である「評価」に共起した単語は「面接」「小論文」「調査書」「表現」「意欲」「思考」など，「学力以外」の評価を重視した選考であることがわかる。また，「調査書」は「面接」のほか「推薦・理由・志望」と共起しており，面接時に志望理由書や推薦書とともに調査書を用いて選抜を行うなど，「クラス担任と志願者本人」が記述する諸書類を重視することが確認できた。このほか，「主体性」に共起した単語は「判断」「態度」以外では「知識」「技能」など各グループ複数の単語との繋がりがみられるなど，「主体性」の重要度の高さが示された。

「類型別」では，3 類型共通の単語は 5 つあり，「思考」「意欲」「表現」「能力」で「評価」とともに共起していた。なお，「5 つの共通単語」は全選抜（一般・学校推薦型・総合型）において最多であることから，本選抜 AP の根幹は全類型で共通していることがうかがえた。したがって，本選抜では類型を問わず，「能力・意欲」を有し「思考（力）・判断（力）」ある者を重視することが考えられる。このほか，類型独自では「地域」と「強み・特色」に特徴がみられた。「地域」は，「調査書」「推薦（書）」などの「書類」を用いて「主体性」や「理解」を確かめている。また「強み・特色」では，「試験」「検査」「実技」「適性」など共通テストを課さぬ分，学力面の担保をテスト形式で補う傾向があった。

3.5 総合型選抜（共通テストを課す）

図 5「総合型選抜・共テあり」において，大学入学共通テストを課す方式のため，「学校推薦型選抜（共テあり）」と同様，「評価」に「共通テスト」「面接」のほか「調査書」「思考」「表現」が共起し，そのうち「思考」「表現」は「主体性」「判断」「知識」の単語と共起の関係にあった。両図の比較から「共テあり」の学校推薦型選抜と総合型選抜は類似性

が高いことが読み取れた。

「類型別」では，共通テストを課すため，3 類型共通では「学習」「知識」など学力を重視したパターンであった。そのうえで，「地域」は「関心」，「強み・特色」は「解決」，そして「卓越」は「探究」など，それぞれの類型にふさわしい「学力＋α」の人物を求めていることが示された。

3.6 総合型選抜（共通テストを課さない）

図 6「総合型選抜・共テなし」では，「学校推薦型選抜・共テなし」と同様に共通テストを課さないため，「評価」に共起する単語が「面接」のほか「知識・技能，思考・判断・表現，主体性」といった「学力の３要素」全体が繋がっている。それらに共起する単語が「調査書」「能力」「総合」「意欲・関心」であることから，「学力および他の力」も重視していることが読み取れた。さらに「講義・レポート」「口頭・試問」「書類・審査」ほか周辺の単語の繋がりから，学力を確認しつつ多面的な評価を行うことも示唆された。

「類型別」では，「評価」と「意欲」が 3 類型の共通単語である。「強み・特色」で多数の独自単語が共起するなど，学部数が比較的少数である「強み・特色」系統群の特徴を顕していた。一方で，「地域」は「調査書」「基礎学力」「理解」「総合」など，調査書をもとに基礎学力や理解力を確かめ，総合的に評価することがうかがえた。

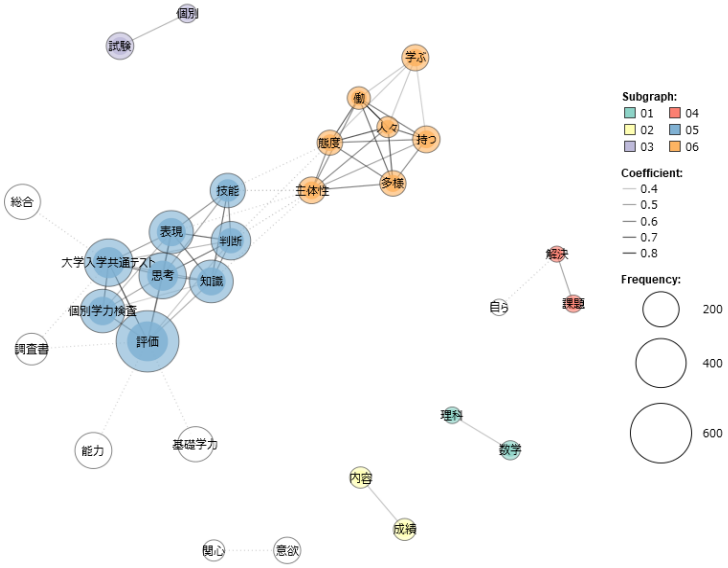

図１　一般選抜・前期日程（全体）

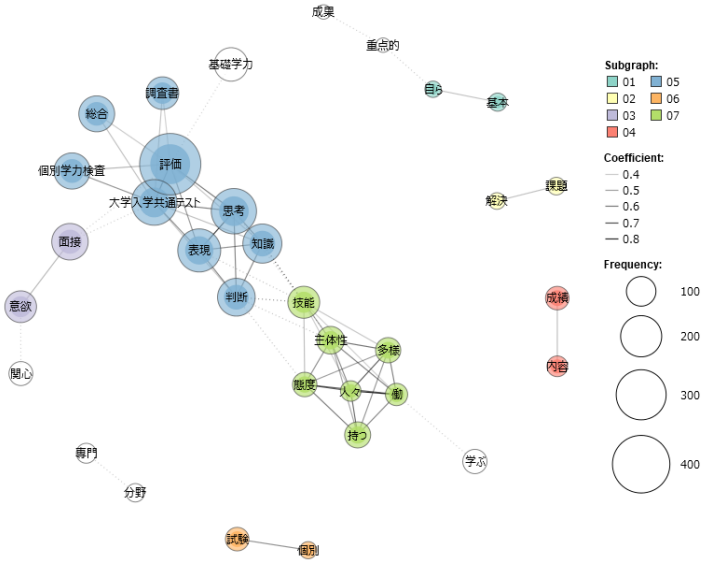

図２　一般選抜・後期日程（全体）

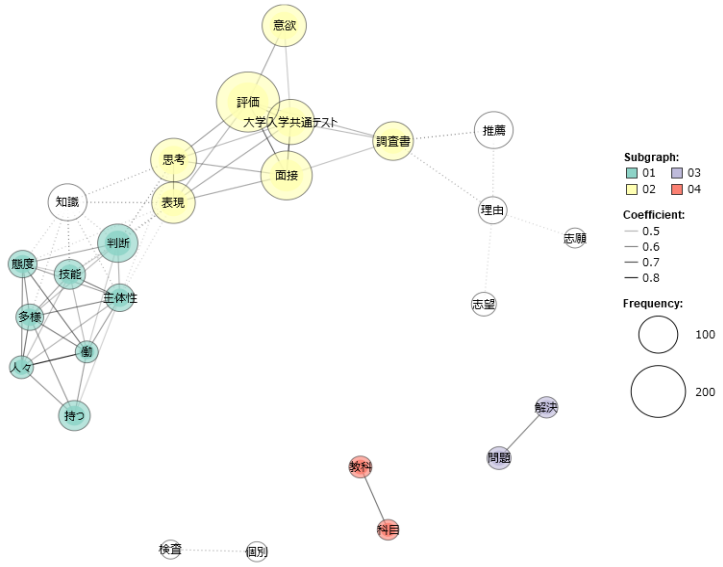

図３　学校推薦型選抜・共テあり（全体）

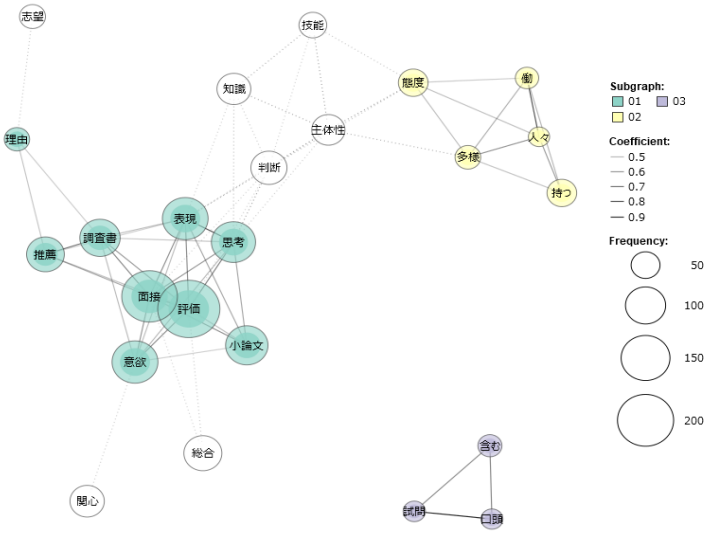

図４　学校推薦型選抜・共テなし（全体）

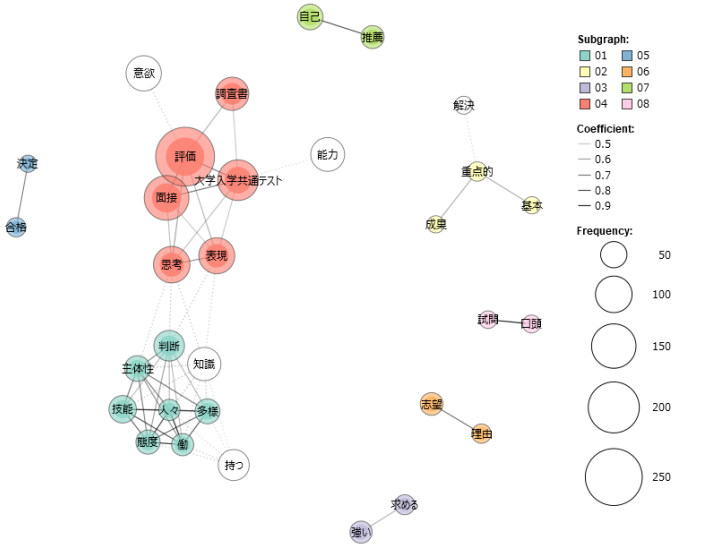

図５　総合型選抜・共テあり（全体）

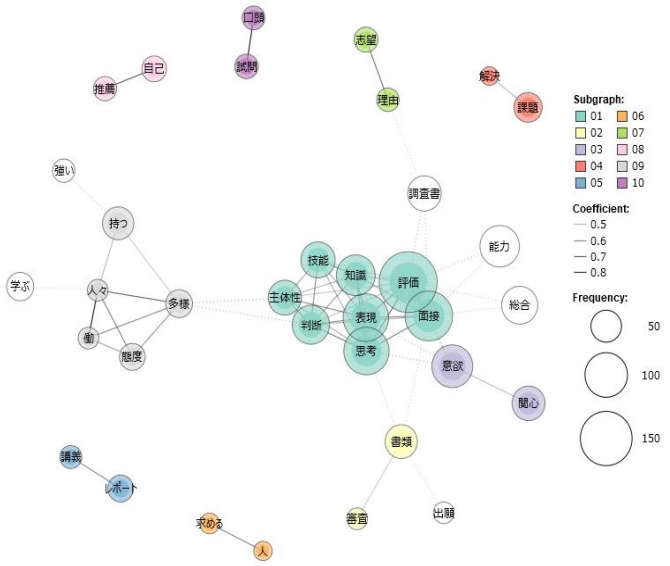

図６　総合型選抜・共テなし（全体）

表４　共起ネットワーク図「類型別」の分類と単語の jaccard 係数（上位５語）

	一般・前期		一般・後期		推薦（共テあり）		推薦（共テなし）		総合型（共テあり）		総合型（共テなし）	
	単語	係数	単語	係数	単語	係数	単語	係数	単語	係数	単語	係数
地域	共テ	.63	共テ	.60	共テ	.40	評価	.35	共テ	.18	面接	.23
	評価	.55	評価	.55	面接	.36	意欲	.30	評価	.17	評価	.19
	思考	.53	思考	.44	表現	.27	思考	.29	面接	.17	表現	.18
	表現	.46	表現	.39	調査書	.23	表現	.28	総合	.12	意欲	.17
	知識	.38	個別検査	.35	思考	.23	調査書	.28	表現	.11	調査書	.16
強み・特色	判定	.13	判定	.13	関心	.13	試験	.13	解決	.05	選考	.19
	学習	.13	文章	.11	書類	.12	実技	.12	技能	.04	学習	.15
	コミュ	.13	問題	.10	コミュ	.11	適性	.11	態度	.03	適性	.14
	分野	.10	小論文	.09	解決	.11	検査	.11	課題	.03	活動	.14
	社会	.09	能力	.08	探求	.10	主体	.10	多様	.03	探求	.14
卓越	個別検査	.27	思考	.13	能力	.11	評価	.04	共テ	.27	知識	.23
	卓越	.26	技能	.13	共テ	.08	高等学校	.04	面接	.27	評価	.10
	評価	.26	判断	.12	思考	.08	能力	.03	能力	.24	能力	.10
	共テ	.24	表現	.12	評価	.08	意欲	.03	調査書	.21	思考	.11
	能力	.24	知識	.12	意欲	.08	活動	.03	書類	.21	面接	.09

表中において，「大学入学共通テスト」は「共テ」,「コミュニケーション」は「コミュ」,「個別学力検査」は「個別検査」と表記した。

4 結び

2017 年 4 月に施行された学校教育法施行規則改正により，大学入学者選抜実施要綱に「各大学の入学者選抜において，『学力の 3 要素』を多面的・総合的に評価する」が追加され，各大学も整い次第，ホームページや学生募集要項に AP が掲載されるようになった。本研究では，2024 年度の全国の国立大学における入学者選抜募集要項等を用いて，各大学の学部学科別・入試種別ごとに記載される AP のテキストデータを取り上げ，共起ネットワークの図的解釈をもとにそれぞれの特徴や傾向を分析し考察した。全体的傾向として，「共通テスト」を「課す・課さない」といった，どちらの入試種別を選択するかによって最多頻度である「評価」に共起する単語が変わることが明らかにされた。同様に，学力の 3 要素において「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の「2 つの要素」は共起する傾向があり，もう 1 要素の「主体性を持って多様な人々と協働する態度」は別グループにて共起する傾向が確認できた。

一方で，「地域，強み・特色，卓越」など，「3 つの類型」にて行った分析では，3 類型に共通で共起した単語と，他類型と繋がらず各グループで独立に共起

した「degree1」の単語に注目して考察した[4)]。3 類型に共通した単語は，一般選抜（前後期）は「学力・能力」で，学校推薦型選抜・総合型選抜では概ね「能力・意欲」であり，類型別においても，選抜方式による「求める人物」の差異が確認できた。また，各類型に独立共起した単語はとりわけ「地域，強み・特色」の 2 類型で顕著に出現しており，各大学の地域性や狙いなど，方向性が際立っていた。

なお，2018 年の学習指導要領改定時に 4 観点から 3 観点に整理されて指導要録への記載が始まった観点別評価については，前述の通り，現状では調査書への記載は行なわれていないものの，同評価導入による高校等の評価の変化は明らかである（永野ほか，2024）。3 観点の項目は「学力の 3 要素」に近似した表記であることに鑑みて，今後は観点別評価が調査書に記載された時点で AP に追加する大学も考えられよう。本調査の段階では，AP に観点別評価等への言及は無かったものの，同評価の調査書への記載が開始され次第，AP の記載内容も変化が起こることが考えられる。それらを含め，本稿では高大接続の変革期における「3 要素（・3 観点）」と大学入学者選抜の AP の関連性について，現状における調査報告を行った。

注

1）学校教育法施行規則の改正では，本稿で述べた AP のほか，DP，CP を含めて「三つの方針」とされ，2016 年 3 月 31 日中教審大学分科会大学教育部会にて三方針の策定及び運用に関するガイドラインが設定された。

2）各教科・科目の観点別学習状況の評価を調査書に記載することの意義は認められるものの，現時点において大学入学者選抜で直ちに活用することには慎重な対応が求められるとして，2025 年度からの改訂調査書への掲載は見送られた。

3）高大接続改革のひとつと目される「調査書見直し」において，「平成 33 年度大学入学者選抜実施要項の見直しに係る予告」では，とりわけ「指導上参考となる諸事項」において質量ともに充実させて，全ての大学入学者選抜の評価へ多面的・総合的に用いることを促した。改訂後は記載量が増え充実化が図られたが，「令和 7 年度見直し予告」では，再び簡素化されることになり，調査書改革においては実質 4 年で再修正を迫られることになった。

4）本稿では表 4 にて報告した「類型別」の図は，「令和 6 年度　全国大学入学者選抜研究連絡協議会」の研究発表予稿集「『3 要素・3 観点』の大学入学者選抜に係る関連性について」（p.152-159）に掲載している。

5）「進路ナビ」サイトによれば，前期日程は学力試験を課す大学が多く，記述式の問題がほとんどであり，また，後期日程は，学力試験の教科・科目数を少なくし，総合問題，小論文，面接などを課す大学が主流とある。

参考文献

中央教育審議会（2014年12月22日).「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」文部科学省 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/__icsFiles/afieldfile/2015/01/14/1354191.pdf (2024年4月10日).

中央教育審議会大学分科会大学教育部会（2016年3月31日).「「卒業認定・学位授与の方針」，「教育課程編成・実施の方針」及び「入学者受入れの方針」の策定及び運用に関するガイドライン」文部科学省 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/__icsFiles/afieldfile/2016/04/01/1369248_01_1.pdf (2024年4月5日).

賈立男（2023).「高大接続改革における「主体性等」評価の現状と課題」『大学入試研究ジャーナル』**33**, 291-298.

高大接続システム改革会議（2016 年 3 月 31 日).「最終報告」文部科学省 https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2016/06/02/1369232_01_2.pdf (2024 年 4 月 10 日).

倉元直樹（2015).「大学入学者選抜における高校調査書」『教育情報学研究』**14**, 1－13.

宮本友弘（2015).「『主体性』評価の課題と展望」『大学入試における「主体性」の評価 ―その理念と現実―』東北大学出版会，7－29.

永野拓矢・寺嶌裕登・橘春菜・石井秀宗(2024).「観点別学習状況の評価と大学入学者選抜における活用可能性の展望高校の進路・教務担当教諭への調査より」『日本テスト学会誌』**20,**

西郡大（2019).「多面的・総合的評価がもたらす教育の質保証」『カレッジマネジメント』**214**, 6－11.

大久保敦（2008).「高校調査書及びアドミション・ポリシーで重視される内容の比較　―高校調査書「指導上参考となる諸事項」に記載されている内容の分析から―」『大学入試研究ジャーナル』**18**, 31－36.

進路ナビ「大学入試の基礎知識　国公立大学個別試験」『高校生のための進路サイト』ライセンスアカデミー https://shinronavi.com/newcolumn/knowledge/2 (2024 年 4 月 15 日).